

心臓リハビリテーション NEWS

心臓リハビリテーションと作業療法(1/3)

平成26年度(2014年度)診療報酬改定において、心大血管リハビリテーションに念願であった「作業療法士」の職名が追記されました。作業療法士の専門分野として、トイレや洗面、入浴などの生活動作や、家事・復職など社会復帰に向けた指導や環境整備などがありますが、それらを単に「できる」「できない」ではなく、より効率的に動作を細分化し、心負担を軽減できるような指導が求められます。また、動作指導だけではなく、心疾患に合併しやすい、精神・心理的側面へも専門的な評価のもと介入が必要であり、作業療法士への期待がますます高まっています。

超高齢社会に突入している今日、循環器疾患と他の疾患による重複障害が増えています。呼吸・循環・腎・代謝疾患の病態生理、心電図、呼吸機能検査、血液データ、薬剤、栄養など知識をさらに身に付け、多くの人に作業療法士の専門性を発揮できるように多職種とともに挑戦することが地域に求められています。

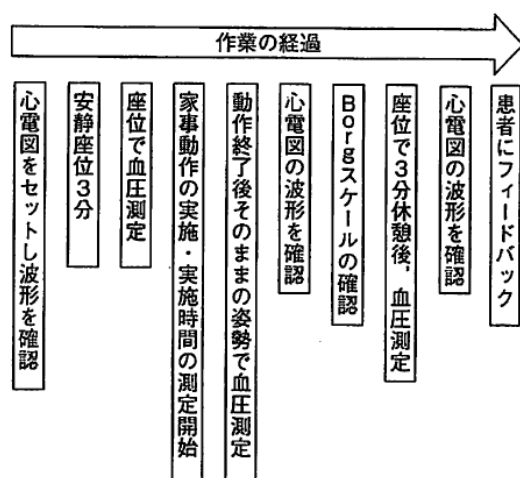


図 作業活動（家事動作）を行うときの評価手順

第34回全日本民医連循環器懇話会参加・演題発表

2017年10月20・21日に第34回全日本民医連循環器懇話会が大阪市で開催され、慢性心不全増悪により入院を繰り返していた症例に対し、外来心臓リハビリテーションが再入院防止に有効だったことについて発表を行い、退院後も継続した支援が重要なことを訴えました。

大会テーマ『結』～心支える連携を目指して～のもと、シンポジウムでは、心臓カテーテル検査室でのスタッフ間の連携改善のため、朝カンファレンスを導入した事例や透析患者様に対する足指の壊疽・切断予防のためのフットケアチームを発足し、院内メールでのカンファレンスで治療方針やその後の外来での経過も多職種で確認できるよう取り組んだ事例について紹介されていました。

演題発表では、①外来での心臓リハビリ継続を希望しているが、通院手段がない患者様を対象に車で送迎している事例。②訪問看護ステーションに心リハ指導士を配置し、心疾患の利用者様を対象に訪問看護のスタッフと一緒に訪問している事例。③作業療法士が臨床心理士、心療内科医とうつ病を発症した患者様に対し、対応の仕方を情報共有しながら治療した事例等、当院でも参考にしたい取り組みが多くありました。



(左：記念講演講師の近畿大学心臓血管外科教授佐賀俊彦先生)